

NIF2 ファイルから SHP, CSV, NIF2 ファイルへの変換 説明書

2007/12/25

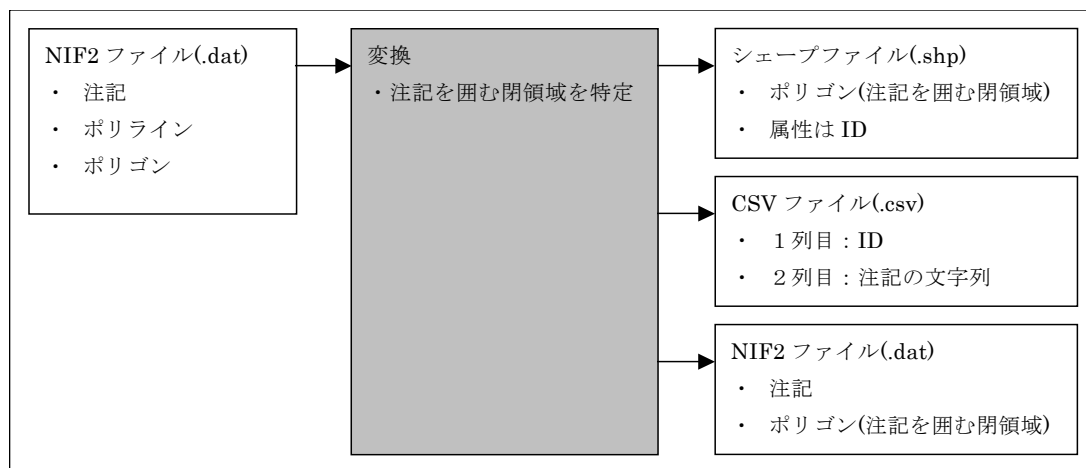
有限会社ジオ・コーチ・システムズ

<http://www.geocoach.co.jp/>

info@geocoach.co.jp

NIF2(.dat)ファイルからシェープ(.shp), CSV, NIF2 ファイルへの変換について説明します。

NIF2 ファイルの注記を取り囲む閉領域を特定し、閉領域のポリゴンシェープファイル、注記の文字列の CSV ファイル、閉領域と注記の NIF2 ファイルを作成します。



複数の NIF2 ファイルを一括して変換できます。

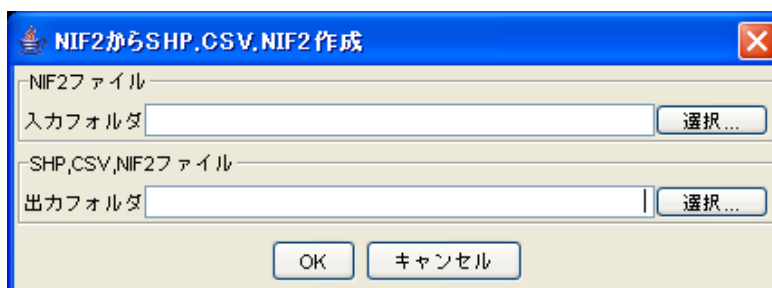
以下のソフトウェアに専用ライセンスを設定することで、変換機能が使えるようになります。

ソフトウェア名	バージョン	ビルド
NIF2 三次元ビューF	2.00	2007/12/25

専用ライセンスが設定されていると、ファイルメニューに[NIF2 から SHP, CSV, NIF2 作成] を表示します。

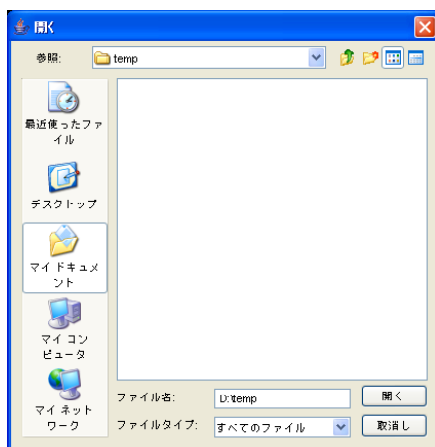


メニュー[ファイル]-[NIF2 から SHP, CSV, NIF2 作成]で変換のダイアログを表示します。



【NIF2 ファイル】

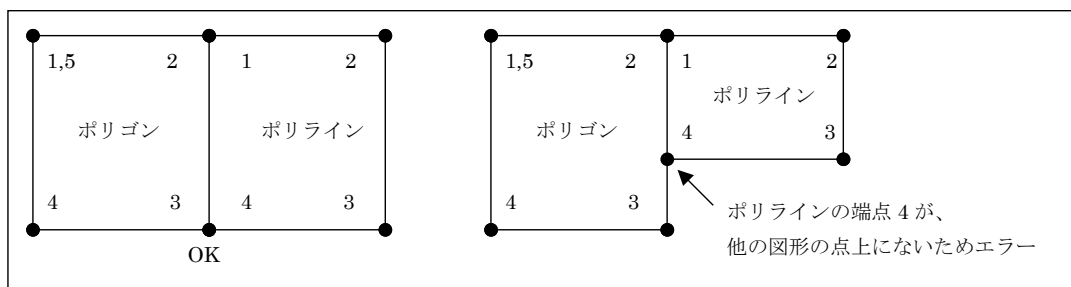
変換する NIF2 ファイルを含むフォルダを指定します。選択ボタンを押し、ダイアログでフォルダを選択してください。選択されたフォルダ名が左側に表示されます。



変換時に、フォルダに含まれる NIF2 ファイル(拡張子. dat)を参照し、全てのファイルをリードします。

NIF2 ファイルは次のような内容になっている必要があります。

- 注記を含んでいる
- ポリラインあるいはポリゴンを含んでいる
- ポリラインの両端点は必ず他のポリライン・ポリゴンの点と同じ座標になっている



ポリラインの端点が他のポリライン・ポリゴンの点と一致していない場合、閉領域が作成できません。

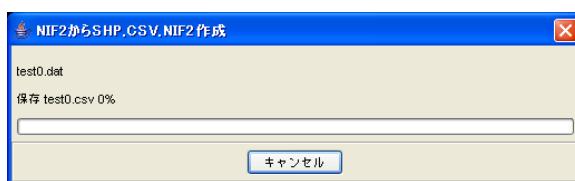
変換時にその端点座標をレポートします。

【SHP, CSV, NIF2 ファイル】

ファイルを保存するフォルダを指定します。NIF2 ファイルと同じファイル名で保存しますので、入力フォルダとは別のフォルダを指定してください。例えば NIF2 ファイルが test.dat ならば、保存するファイルは test.shp, test.shx, test.dbf, test.csv, test.dat になります。

【OK】

OK ボタンで変換を開始します。処理中は進捗状況を表示します。



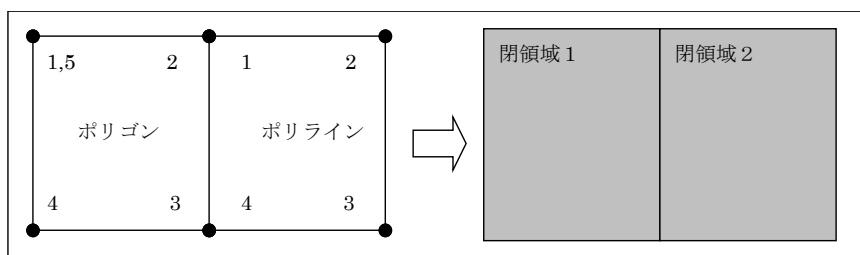
以下の順序で指定されたフォルダ内の NIF2 ファイル(拡張子. dat)を順次処理します。

(1) NIF2 ファイルをリード

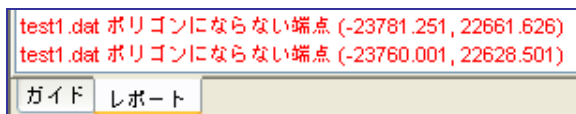
NIF2 ファイルに注記がない場合、ポリゴンあるいはポリラインがない場合、この NIF2 ファイルの処理を終了します。

(2) 閉領域を作成

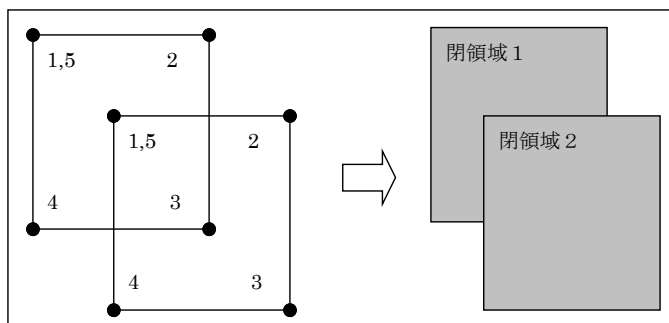
レイヤ別に NIF2 ファイルのポリラインとポリゴンから閉領域を作成します。キーコード・ラインタイプは問いません。



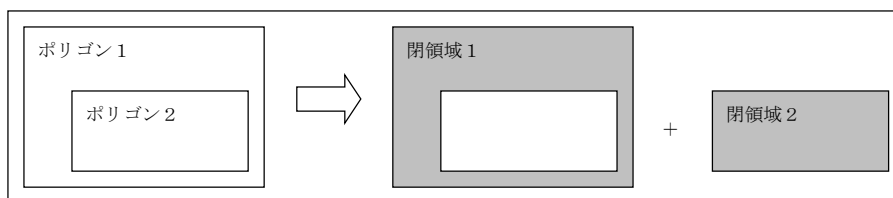
ポリラインの端点が他のポリライン・ポリゴンの点と一致していない場合、その座標を[レポート]パネルに表示します。



ポリゴンとポリゴンが一部重なっている場合、重なった閉領域ができます。



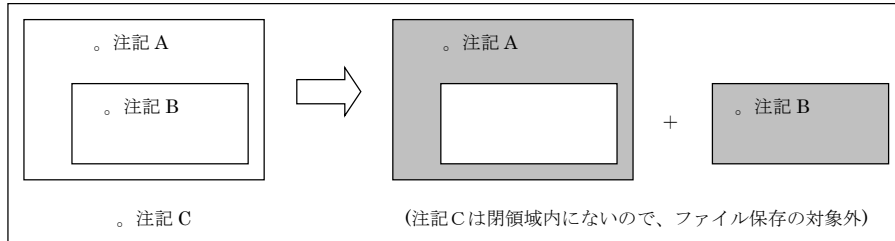
ポリゴンの中にポリゴンがある場合、穴があいた閉領域を作成します。



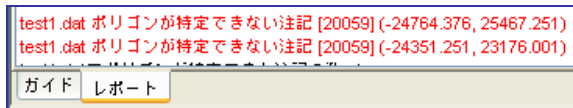
穴があいた閉領域は、シェープファイルには内周(穴)があるポリゴンとして保存します。NIF2 ファイルには外側は右回り、内側は左周りのポリゴンとして保存します。

(3) 注記を囲む閉領域を特定

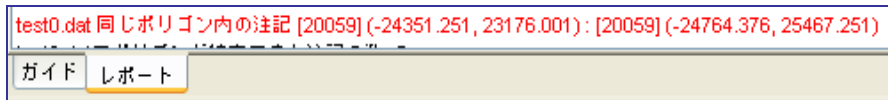
NIF2 ファイルの注記について、レイヤ別に注記が含まれる閉領域を特定します。注記と閉領域を作るポリライン・ポリゴンは同じレイヤになっている必要があります。閉領域が特定できた注記について、その注記と閉領域をファイルに保存します。



閉領域の中にある注記、あるいは複数の閉領域に含まれる注記がある場合、文字列や座標などを[レポート]パネルに表示します。



ひとつの閉領域に複数の注記が含まれる場合、その旨を[レポート]パネルに表示します。最初に閉領域を特定した注記についてのみファイルに保存します。



(4) シェープファイル保存

ポリゴンのシェープファイル(シェープタイプ=5)を保存します。閉領域が特定できた注記についてその閉領域を保存します。閉領域に穴が空いている場合、内周を含むポリゴンを保存します。

フィールド名	型	フィールド長	内容
ID	文字列	20 バイト	閉領域が特定できた注記の順番で 1, 2, 3, ... と付けていきます
LAYER	整数	4 バイト	NIF2 でのレイヤ

(5) CSV ファイル保存

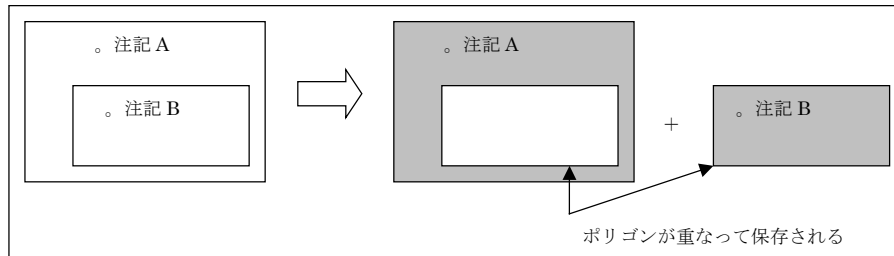
シェープファイルに保存した ID と注記の文字列を CSV ファイルに保存します。1 行目はヘッダで、2 行目からデータです。データの数は、シェープファイルに保存したレコードと同じです。

列	型	内容
1	整数	ID (=1, 2, 3, 4, ...)
2	文字列	注記の文字列

D,整理番号,単位区域名,市町村,地番,保安林種,兼種保安林,一部指定,林小班,台帳面積,告示年月日,告示番号,備考 1,備考 2,備考 3,
 1,20059,,
 2,20059,,
 3,20065,,
 4,20065,,
 5,20060

(6) NIF2 ファイル保存

閉領域が特定できた注記と閉領域をポリゴンとして保存します。注記のレイヤー、キーコードおよびラインタイプは元の注記と同じで、ポリゴンも注記と同じ値です。ポリゴンは基本的に右回りとして保存しますが、穴があいた閉領域は、外側は右回り、内側は左周りで保存します。従って、穴側の閉領域にも注記がある場合、穴については右回りと左回りのポリゴンが重なることとなります。



(7) レポート

[レポート]パネルには、NIF2 ファイル毎に処理内容およびエラーを表示します。

```
NIF2からSHP,CSV,NIF2作成開始...
D:\work\200711NIF2-SHP\input\test0.dat...
test0.datをリードしました
test0.datの注記の数=6
test0.datのポリゴンとポリラインの数=17
test0.datのポリゴンにならないの端点の数=0
test0.datから作成した単純ポリゴンの数=17
test0.datから作成した外周ポリゴンの数=17
test0.dat 同じポリゴン内の注記 [20059] (-24351.251, 23176.001) [20059] (-24764.376, 25467.251)
test0.datでポリゴンが特定できた注記の数=5
ファイル[D:\work\200711NIF2-SHP\output\test0.shp]を保存しました
ファイル[D:\work\200711NIF2-SHP\output\test0.shx]を保存しました
ファイル[D:\work\200711NIF2-SHP\output\test0.dbf]を保存しました
ファイル[D:\work\200711NIF2-SHP\output\test0.dat]を保存しました
ファイル[D:\work\200711NIF2-SHP\output\test0.csv]に5個の注記を保存しました
NIF2からSHP,CSV,NIF2作成終了
```

ガイド レポート

マウス右ボタンのポップアップメニューで全体あるいは一部分をクリップボードにコピーできます。

```
NIF2からSHP,CSV,NIF2作成開始...
D:\work\200711NIF2-SHP\input\test0.dat...
test0.datをリードしました
test0.datの注記の数=6
test0.datのポリゴンとポリラインの数=17
test0.datのポリゴンにならないの端点の数=0
test0.datから作成した単純ポリゴンの数=17
test0.datから作成した外周ポリゴンの数=17
test0.dat 同じポリゴン内の注記 [20059] (-24351.251, 23176.001) [20059] (-24764.376, 25467.251)
test0.datでポリゴンが特定できた注記の数=5
ファイル[D:\work\200711NIF2-SHP\output\test0.shp]を保存しました
ファイル[D:\work\200711NIF2-SHP\output\test0.shx]を保存しました
ファイル[D:\work\200711NIF2-SHP\output\test0.dbf]を保存しました
ファイル[D:\work\200711NIF2-SHP\output\test0.dat]を保存しました
ファイル[D:\work\200711NIF2-SHP\output\test0.csv]に5個の注記を保存しました
NIF2からSHP,CSV,NIF2作成終了
```

ガイド レポート

選択部分をコピー
全てコピー
全て消去

【更新記録】

□2007/12/25

- ・ 閉領域の重複に対応するため、閉領域の作成と注記のマッチングをレイヤ別に処理するようにしました。
- ・ 保存するシェープファイルに属性「LAYER」を追加しました。